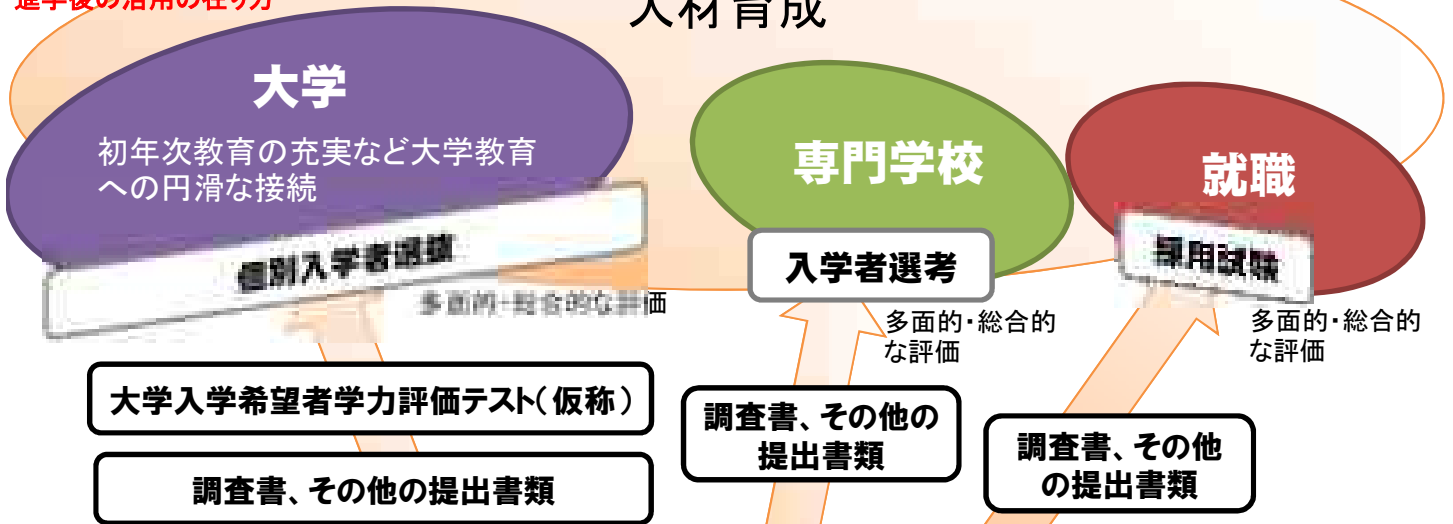


- ☆日々の活動を通じて育成される幅広い資質・能力について多面的に評価
- 学習評価の結果や把握した基礎学力の定着度等の生徒への指導改善や教材研究等への反映
 - 大学等への進学や就職等における個人の学習履歴・学習成果の証明に活用
 - 高等学校における学習と大学における学修等との接続のために活用

高等学校段階の教育・評価の充実から、進学・就職時における多面的・総合的な評価の推進、その後の教育活動・人材育成までを視野に入れた評価の仕組みを構築

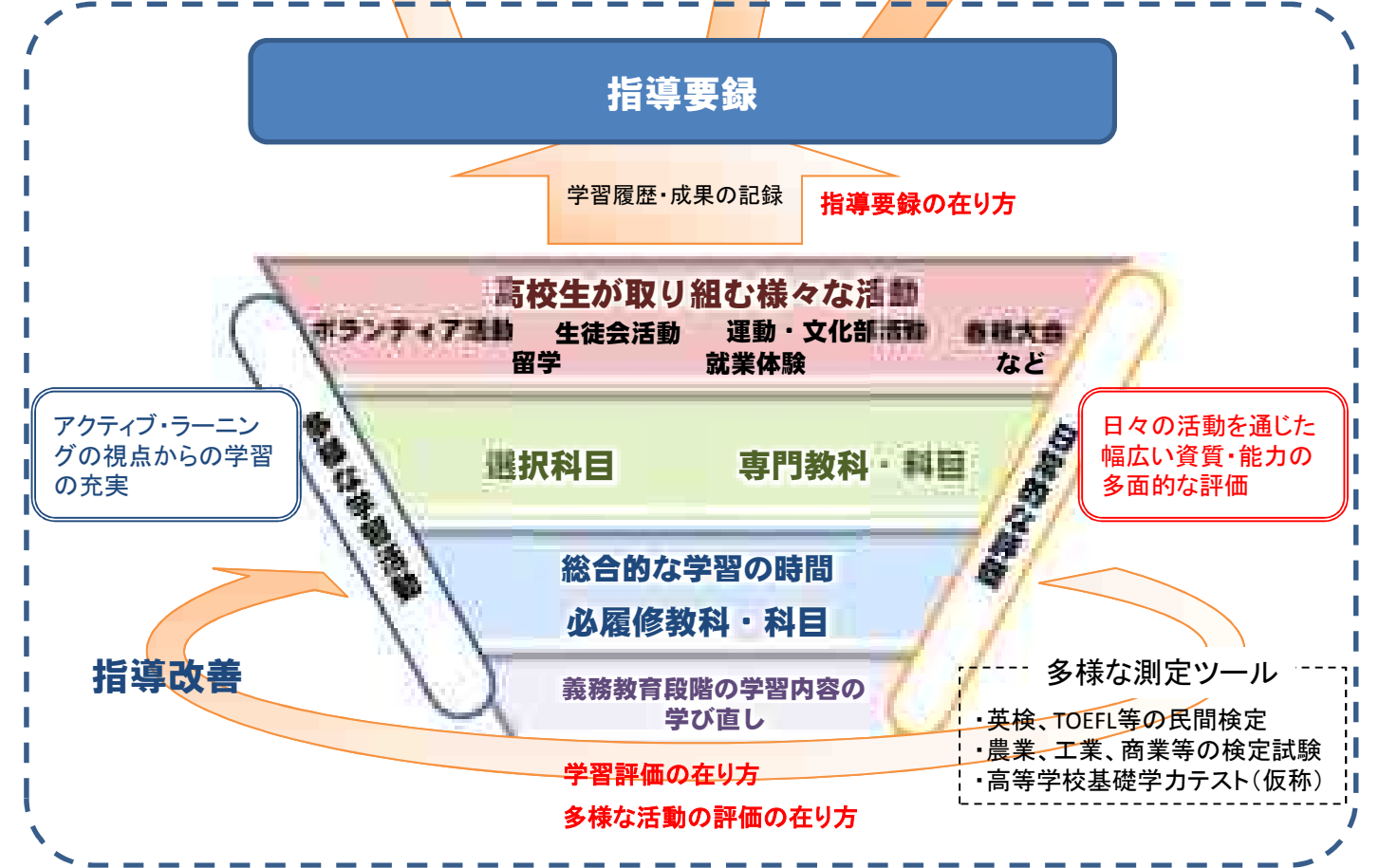
進学後の活用の在り方

人材育成



選抜段階での活用の在り方

進路実現のための個人の学習履歴・学習成果の証明に活用



評価の充実のための基盤

基盤整備の在り方

高等学校段階における評価の在り方について

◆ 「学力の3要素」をバランスよく育成するため、指導の在り方と一体となって、評価の在り方を見直していくことが必要である。

◆ このため、目標に準拠した観点別の学習評価を進めることはもとより、一人一人の進路に応じた多様な可能性を伸ばすという観点から、教科等に留まらない学校内外での学習活動全般を通して、生徒の資質・能力の多面的な評価を推進し、指導の改善を図る。

【学習評価の在り方については、中教審教育課程部会において、次期の学習指導要領の検討の中で取り扱われている事項であり、今後、高大接続の観点も取り入れながら、具体的な検討が進められることを期待。】

課題として指摘された事項と改善の方向性

【生徒の資質・能力の多面的な評価の推進】

<各教科等の学習評価の在り方>

生徒の資質・能力を多面的に評価していくためには、そうした力を見取ることができるような、生徒の多様な活動の場を設定していくなど、学習・指導を改善していくことが必要。

アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に対応し、学習の成果として育まれる資質・能力を多面的に把握し、評価していくことがこれからは重要。



- 各教科等の学習を通じて、生徒の「学力の3要素」をバランスよく育成するために、学習指導要領に掲げる各教科等の目標に対応した評価の観点を設定し、目標に準拠した観点別学習状況の評価を推進し、指導の改善に生かしていくことが必要である。
- 高等学校における観点別評価の一層の充実を支援するため、多様な高等学校教育の特性を踏まえつつ、教科・科目ごとの観点設定の考え方や評価の方法等について参考となる資料を作成することや、観点別の記載欄を設けた指導要録の様式例を提示することについて検討する。
- アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善が求められる中、そうした学習を通じて育成される資質・能力を的確に評価していくための方法や、総合的な学習の時間など学校内外の多様な学習活動に対応した評価の在り方等の研究、開発など、評価と指導方法の改善を一体的に推進していくことが必要である。

<多様な学習活動の評価の在り方>

高等学校における多様な学習成果を測定するツールの充実のため、各種検定を多面的な評価を行う観点から改善、活用ができないか。



- 高等学校での活用を念頭に置いた民間検定等については、実施主体において、高等学校における学習との関連を明確にしていくことや、より「思考力・判断力・表現力等」を評価できるようにしていくことが求められる。こうした質的な充実等がなされることを前提として、学校の実態に応じて、生徒の学習の成果を多面的に評価していくツールの一つとして積極的に活用していくことを促す。

【民間検定の質の保証については、中教審生涯学習分科会学習成果活用部会における詳細な検討を期待。】

- 各専門学科の専門高校校長会で実施する検定試験を含め、各種検定試験等が、「学力の3要素」のうち、知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力等との関連を明確にしていくことになれば、当該検定試験の結果は、生徒が培ってきた資質・能力を評価していくツールの一つとして活用されることにつながることを期待される。

高等学校段階における評価の在り方について

【生徒の資質能力の多面的な評価】

<指導要録の改善>

指導要録の評定の数値だけでは、教員が見てきた生徒の姿が見えない。

生徒がどちらの方向性に伸びしろを持っていて、どの部分を大学で引き継いでいくのかという判断が大学で可能となるように定性的な情報が必要。

コミュニケーション能力、主体性、協調性、チャレンジ精神など企業が求める情報が指導要録や調査書等の記載事項から読み取られるようにすべき。



- 観点別学習状況の評価を推進していく観点からの学習評価の改善や、教科外・学校外の活動に関する評価など多様な学習活動の評価の在り方に示した取組が促進されるよう、また、多面的に行われた評価が適切に記録として蓄積され、指導改善や学びの接続に生かせるよう、指導要録の改善を行うことを検討する。

<評価の妥当性や信頼性の向上>

高等学校における学習評価は、学習指導要領に示す各教科等の目標に基づき、各学校が定めた目標や内容に照らして行い、評価規準の設定や評価方法等の工夫改善は各学校で行うものであることを踏まえ、各高等学校においても、どのように評価を行ってきたかを対外的に明らかにすることが必要。



- 総括的な評価(評定)に至るまでに、どのような形成的な評価を積み重ねてきたのか、どのような目標を設定し、どのような点を重視した評価なのか等を記載内容と対応させていくことが重要である。
- 観点別学習評価を推進していくとともに、各学校で定める学校運営の方針等において、どのような資質・能力を卒業までに育てようとしているのか、それに基づきどのような教育課程を編成し、評価規準の設定や評価方法の工夫等をどのように行っているのかということを予め明確にした上で、学校の内外に共有し、実践していくことが必要である。
- 高等学校における評価の妥当性や信頼性を向上させる取組は、各大学における入学者選抜改革や初年次教育の充実の取組を一層実効的なものとするに資するものであり、高大接続改革の好循環を生むことが期待される。

<高等学校基礎学力テスト(仮称)の扱い>

- 高等学校基礎学力テスト(仮称)は、多様化する高等学校において、学習指導要領に対応した基礎学力の定着度合いを確認するための目安とすることで、生徒の基礎学力の習得を促すとともに、各学校が行う目標に準拠した評価等と併せ、より効果的な指導の工夫・充実につなげるためのツールとしての活用が期待される。
- 一方、高等学校基礎学力テスト(仮称)により測定できる学力は、多様な資質能力の一側面であることから、その結果をもって直ちに生徒の成績評価を行うことは想定しておらず、あくまで、生徒の基礎学力の習得を促すために、定着度合いを把握する一つの目安として活用されることが前提として予定されている。
- その上で、高等学校基礎学力テスト(仮称)の結果を成績評価の材料の一つとして用いるにあたっては、利用する学校の教育目標や評価方針に照らし、生徒の資質・能力のどの部分を評価するために用いるのか、また、定着度合いの目標をどこに設定して評価しようとしているのか等を明確にしておく必要がある。
- このため、高等学校基礎学力テスト(仮称)の具体設計に当たっては、生徒の資質・能力の一側面を捉えるものであり、多面的な評価の中での測定ツールの一つであることを前提として置きながら、試行等を通じて学習評価への活用についても整理していくことが必要である。

高等学校段階における評価の在り方について

【主体的な学びを育む観点からの取組の推進】

＜生徒自身のキャリア実現に向けた検討＞

本人の主体的に学習に取り組む態度が非常に重要であり、大学あるいは企業を志望する理由を本人がきちんと書くということが大事。

受験前になる以前から、日々の学習において取り組んだことや成果を積み上げていけばいくほど、もっと子供のよさ、可能性が分かってくる。

自己を内省し、自分のキャリア形成を考えていく機会が、現在の高校教育の中でどれだけあるのか。



- 一人一人の進路に応じた多様な可能性を伸ばし、その後の大学や専門学校などの高等教育機関での学修や社会での活動等へと接続させていく上で、高校生自らが将来のために何に取り組んでいくべきかを考え、その取り組みを自覚的に振り返ることを通して、主体的に学びに向い、自発的なキャリア形成を促していくことは重要である。
- 高校教育段階において、生徒自らが設定した将来の目標に向かい、どのような学びを重ねてきたのか、そこから何を学んだのかについて、高校入学から卒業までを通して、自覚的に振り返ることや、それを踏まえて教員が生徒の学習状況等を把握し、目標達成に向けた助言を行ったり、進路指導を行うことを促す取組が進むことが期待される。
- このため、小中学校を中心に「キャリア・ノート」の作成と次段階の学校への引き継ぎ等の取組が行われていることを参考に、ポートフォリオ評価の観点やキャリア教育の観点を取り入れながら、上記の取組の推進に向けた具体的な方策を検討する。
また、当該取組を児童生徒の主体的な学びにつなげていくための方策について、次期の学習指導要領に向けた検討の中でも、より深めて検討していくことを期待する。



- 生徒の主体的な学びを促していくこととともに、高大接続の観点からは、高等学校卒業後もキャリア実現に向けての学びが継続していくように大学進学等の進路選択が行われることが重要となる。
- このため、各大学の3つのポリシーに関する情報を踏まえながら、どの大学で何を学ぶことが生徒のキャリア実現のために 必要なかを十分に考慮した進路指導の充実についても、併せて検討が必要である。

大学入学者選抜等における評価の在り方について

- ◆ 高等学校教育においては、学習評価の在り方の見直しや指導要録の改善等の学習評価の改善や「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の導入、各種の検定試験の積極的な活用など、多面的な評価を推進するための検討が行われているところ。
- ◆ このことも踏まえ、大学入学者選抜において、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するためには、丁寧な書類審査や面接の活用等も含め、大学入学前の学習や多様な活動等に関する評価の充実を図ることが必要。
あわせて、これらの評価をその後の大学教育に十分に生かしていくことが必要。
- ◆ このためには、調査書をはじめとする提出書類の在り方についても改善を図ることが急務であり、以下の観点から見直しに取り組む。その際、
 - ① 現行学習指導要領下で取り組めるものについては速やかに対応し、平成32年度に実施される大学入学者選抜から活用できるようにするとともに、
 - ② より抜本的な見直しが必要なものについては、次期学習指導要領に基づく指導要録の見直しを踏まえて対応。

課題として指摘された事項と改善の方向性

【生徒の特性や高等学校での多様な学習や活動の状況を的確に示す調査書や推薦書の見直し】

<教科・科目の学習状況の多面的・総合的な評価>

教科・科目の学習の状況を多面的・総合的に把握できるよう、現行の評定と修得単位数だけでなく、小学校・中学校と同様に学習評価の観点別の評価についても記載すべき。



○次期学習指導要領に基づく指導要録の見直しを踏まえ、調査書の様式を見直す。

<生徒の特長や個性等の適切な把握>

生徒の特長や個性、多様な学習や活動の履歴についてより適切に評価することができるよう、様式を見直すべき。



○現行の調査書の「指導上参考となる諸事項」等の欄を拡充し、より多様で具体的な内容が記載されるようにする。

(例)・民間や専門高校の校長会等が実施する各種検定試験等の結果

- ・国際バカロレアなど国際通用性のある大学入学資格試験における成績
- ・科学オリンピック等における成績
- ・各種大会・コンクールや顕彰の記録
- ・生徒会活動や社会貢献活動の状況
- ・留学や海外活動の経験 など

○その際、一定の共通の留意事項を踏まえて記載されるよう、「記入上の注意事項」等の見直しなども検討する。(例えば、検定のスコアや取得年次、活動の取組内容や期間など)

○また、教員によって調査書に記載される情報量や要素に極端なばらつきが生じることのないよう、各欄ごとの評価の考え方や記載の多様な例文等を共有する仕組みを検討する。

<特定の分野での高い学習成果の評価>

大学入学者選抜の受験科目として対象となることの少ない分野での高い学習成果を適切に評価する方法について検討すべき。



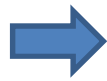
○例えば、大学の指定する特定の分野において特に優れた学習成果を上げたことについて調査書で明示する。

大学入学者選抜等における評価の在り方について

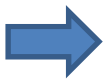
【生徒の特性や高等学校での多様な学習や活動の状況を的確に示す調査書や推薦書への見直し】

<「全体の評定平均値」の扱い>

全教科の評定を単純に平均した「全体の評定平均値」については、その値のみを評価することで生徒の多様な能力や個性の評価を妨げている面があり、見直しが必要。



○現行のAO入試や推薦入試においては全体の評定平均値が出願要件等に用いられていることなどにも留意しつつ、その在り方を検討する。



○校長等の「推薦書」の中で本人の学習や活動の成果を踏まえた学力の3要素に関する評価を必ず求めることとするなど、推薦書の見直しについて検討する。

【入学希望者本人が主体的に記載する提出資料の充実】

大学により多面的な情報を提供するとともに、大学入学希望者の大学での学修への意欲を高める観点から、提出書類の多様化やその内容の充実が必要。



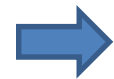
○大学において、大学入学希望者が記載する「活動報告書」(※)や「大学入学希望理由書」、「学修計画書」等の提出やそれに関するプレゼンテーションを求めることや、これらを様々な選抜においてより積極的に活用するための方策について検討する。

※ 例えば、以下のような内容を記載することが考えられる。

- ・「総合的な学習の時間」等において取り組んだ課題研究等
- ・学校の内外で意欲的に取り組んだ活動(部活動、生徒会活動、社会貢献活動、各種大会・コンクール、留学、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)等における特色ある活動等) など

【高等学校での学習状況等を踏まえた大学教育への改善】

高等学校での学習状況等に関する情報を大学教育に十分に引き継ぐべき。



○入学前の学習や活動の状況等を踏まえたより効果的な初年次教育等の実現に向け、各大学における調査書や提出書類の活用を促進する。その際、各高等学校が定める学校運営の方針等に関する情報について、各大学が必要に応じ高等学校に提供を求めることなども考えられる。



○高等学校段階までの多様な学習・活動等の履歴と大学での学びの履歴である学修ポートフォリオ等を接続させ、大学での学修の充実やその後のキャリアや進路、さらには生涯にわたる学習活動に有効に活用できるツールとするための仕組みなどについても検討する。